

「学んで生かすべし」

研修レポート



榛東・吉岡議会議員編

議員全体編

10/20

北群馬郡町村議会議長会議員研修会

場所：吉岡町文化センター 研修室

「地方議会における議事の諸対応について」

わかりやすく丁寧な説明をして下さる河野先生から、今回も多くを学びました。まずは、議会の地位や使命から始まり、議員の責務といった基本の確認をしました。続いて本会議における不測の事態として、不規則発言や不穏当発言、それらの取り消しや訂正を学びました。次に、動議の取り扱い、除斥、秘密会の手続き等について伺い、最後は忘れてはいけない議員の心得で締めくくりとなりました。(波多野佐和子)



講師
群馬県町村議会議長会議長次長
河野 哲也氏



11/1

群馬県町村議会 議員研修会

場所：吉岡町文化センター ホール

「議員報酬・政務活動費の充実にに向けた論点と手続き」

～住民福祉の向上を実現する町村議会のための条件整備～

議員報酬については、それだけでは、生計を維持できない低水準であり、そのことが議員の成り手不足の要因であるとの議論があるが、それだけではなく議会力アップに連動して、そのことが議会・議員の魅力に住民に伝える。それが議員報酬とつながる論点も必要であると認識しました。榛東村議会では政務活動費の交付はありませんが、活用方法や課題を具体的に説明を受け、議会力をアップすることの大切さを実感しました。(清水健一)



講師
大正大学社会共生学部教授
江藤 俊昭氏

議会広報常任委員会編

11/24-25

議会広報研修会・広報クリニック

場所：群馬県市町村会館

「住民に読まれ、伝わり議会の見える化へ」

～議会広報の基本と編集～

「村民の声」は裏表紙へ



24日は「住民に読まれ、伝わり、議会の見える化へ」のタイトルで始まりました。まずは読みたくなるような表紙の題字やレイアウト、そして写真。読者の目を引く編集方法を学びました。25日はしんとうむら議会だより100号を診断していただき、改善課題の点検や確認を行いました。その中で、掲載された「村民の声」に対して議会がどう対応していくのか、その「ひと言」を加えるなどの工夫をすることや村民の意見の常設コーナーを設けることなどのアドバイスを受け、「住民参加型」の編集の必要性を学びました。(波多野佐和子)



講師
議会広報サポーター
芳野 政明氏



「気候変動・異常気象とこれからの防災・減災対策」

記録的短時間大雨が起こるメカニズムや1980年代からの群馬県内各地の気温上昇などから、これからの防災・減災対策についてご講演いただきました。近年、暑さで亡くなる人が増加しており、その防止には日傘が重要とのこと。熱中症などで亡くなる方の4割近くが室内で発生しているとも伺いました。過去に類を見ない大雨が増加しているので、気象庁のキキクル(危険度分布)やお知らせメールなどで普段からチェックする習慣づけをし、防災・減災に対応できるようにすることが大切であると学びました。(須田仁美)



講師
気象予報士・防災士
みなみ 南 利幸氏



「学んで生かすべ!!」研修レポート



文教厚生常任委員会編

11/17

文教厚生常任委員会

場所：沼田市学校給食センター

地元産の温かいご飯の提供とアレルギー対応給食を学ぶ

沼田市学校給食センターは、3つの調理場を一つにし、令和2年度8月末から稼働しています。小中学校等21校、3530食を提供しています。特色は、アレルギー調理室や玄米で入荷したお米を精米して蒸気により炊飯する設備を導入し、つきたて・炊きたての温かいご飯を児童生徒に提供しています。食物アレルギー等対応原因食材は127品目、対応人数は約130人です。実際に調理している様子の録画映像を視聴しながら説明を受け、最新設備や対応など多くのことを学びました。

(南 千晴)



11/22

防災中枢機能施設整備事業の現状での計画や内容等について調査

防災中枢機能施設整備事業に対する提言書を提出

- 1 施設開所後の人員配置等の運営方法を検討し、それらを踏まえた設計や計画とすること
- 2 現在の計画には精米機はないが、どのように運営するのかを踏まえて精米機の導入についても検討をすること
- 3 安心安全なアレルギー対応給食を提供するため、栄養士の増員を検討すること
- 4 食物アレルギーの原因食材だけでなく、宗教の禁食や服薬等で食べられない食材にも対応すること
- 5 榛東産（近隣産）の温かく美味しい米飯の提供ができるよう、関係団体との協議や検討を早めに行うこと
- 6 未就学児のプレイルームでは、障害の有無に関わらず、対象の子どもたちだれもが安心安全に遊べるよう工夫をし、就学児の兄弟がいる場合等多様な状況でも活用できるようにすること
- 7 隣接する道路や田畑への影響も考え建設前後の雨水対策をしっかりとすること

